

夢描く場所

千葉市立高等特別支援学校
学校だより 第11号
令和6年3月25日

卒業おめでとう!自分らしさを大切に。

3月6日は別れを惜しむ涙雨が降る中、千葉市教育委員会より教育委員の小西朱見様をはじめ、お世話になった地域等の方々に来賓としてご出席賜り、第9回卒業証書授与式を執り行うことができました。本校の卒業式では、卒業生が証書授与の後にステージ上から皆に向け、一言挨拶することが伝統となっています。生徒一人一人の言葉からは、これまで18年間育ててくれた保護者への感謝、親身になって話を聞いてくれた先生方へのお礼、笑いあり涙あり苦楽を共にした級友や後輩への思いが伝わり、その言葉からはこれまでの家庭や学校での生活や家族、先生、友達とのやりとりが映像として浮かび上がってくるようでした。式の中で噛み噛みでうまく伝えられなかった式辞の一部を載せて、あらためて思いを伝えさせていただきます。



今日、巣立つ皆さんにお祝いの言葉を贈るにあたり、「祝う」の反対語を調べてみました。「祝う」の反対語は「呪う」です。卒業を祝う席であえて反対語の「呪う」という言葉を使わなくてもとも思いましたが、少し解釈を伝えさせてください。学校だよりも紹介した、ダウン症の弟がいる作家の岸田奈美さんはエッセイの中で、「呪う」という言葉について「雑なラベリングではないか」と捉えています。「あなたは○○だからこうすべき」とか、「○○だからこれはしてはいけない」とか、誰かが勝手にラベリングして、良くも悪くも押し付けることではないかとしています。具体的には「弟が障害者なんだからしつかりしなさい」「お父さんが早く亡くなってかわいそうに」等々、相手は良かれと思って言っている言葉に窮屈さを感じていたようです。そんな折に、ふと掛けられた「好きなことをしているときのあなたが、一番いいよ」「あなたらしくしている時が素敵」という言葉が、「呪いを祓う祝いの言葉」だと感じたとのことです。

私も同じように思います。障害や特別支援という言葉で、誰かに勝手にラベリングされるだけでなく、自分自身でも「自分はこんな人間だから」と勝手にラベリングしてはいないでしょうか。諦めたり言い訳したりということのないように、また、自分の特性や良さを前面に出して、胸を張って自分らしく生きることが大切だと感じています。周りからの押し付けや自分自身の思い込みといった「呪い」を振り払い、自分らしさを存分に出して生活してほしいと願うことが「お祝い」なのではないかと思えます。どんな時でも、どんな道でも、「自分らしく、自分で考えて、自分で決めて、自分でやってみる」ということができるよう願っています。また、それを全力で応援することを約束し、呪いを祓う「祝い」の言葉にしたいと思います。



卒業式後の3週間、長い春休みを満喫しているであろう卒業生の皆さん。先輩がいなくなった淋しさや不安が自覚や余裕に変わり始めてきたであろう1・2年生の皆さん。もうすぐ始まる新生活、新学年に向けての準備はいかがでしょうか？余裕があるというのはとても良いことだと思います。しかし、その余裕が油断や慢心にならないように気を付けてください。これまで培ってきた基礎基本を再確認して、出来ていたことを確実に、出来ていないことをしっかりと目標に据えていきましょう。

☞ ○○先生も自身への戒めを込めて「慢心禁物」のバックプリントTシャツを着て22日の全校レクでは、しっかりとリベンジを果たしておりました。

校長 三宅 健二郎